

創造

No.
65

発行 公益財団法人 富山県ひとづくり財団



CONTENTS

● エッセイ	2
● 第41回「とやま賞」	3
● 「夢の卵」 育成事業	6
● きらめき未来塾	8
● 子どもたちの生きる力を育む起業家教育推進事業	9
● 高校生とことん科学セミナー、高等教育振興事業	10
● 令和7(2025)年度ひとづくり財団事業予定	11

エッセイ

旧日本人町を訪れて

―歴史を語るパナマホテル

富山大学 教養教育院 准教授

水野 真理子 氏



「百聞は一見にしかず」―馴染みある諺である。その言葉の意味を象徴するような経験、いやそれ以上のものを私は2024年の夏に出かけたアメリカへの調査旅行で得ることができた。その旅は、日系アメリカ人の歴史と富山出身の作家翁久允の足跡を辿るためのものであった。

翁は、1888年に現在の立山町六郎谷村に生まれ、1907年、19歳の時、ワシントン州シアトルに渡った。そして在米日本人社会で日々の労働に奮闘する中、小説を書き、邦字紙『日米新聞』の記者となる。彼はシアトル、ブレマートン、ポートランド、サクラメント、フロリン、スタクトン、オークランドなど西海岸地域を移動しながら、およそ17年過ごした。私は3週間かけて、彼の足跡を追いながら、各地の

博物館や大学図書館などで戦前の日本人町の様子や強制収容に関する資料収集を行った。

シアトルで私が見たものは、もっとも印象深かった。中心部のダウンタウンから少し南下した場所に、アジア系文化が共存する地域（インターナショナル・ディストリクト）があり、そこに、かつて日系人夫婦が経営していたパナマホテルがある。

現在も宿泊可能なこのホテルは、1910年代から1940年代のはじめ、西海岸地方の日系人が根こそぎ強制収容されるまでの歴史を、そして1945年の終戦後、戻ってきた日系人たちの苦勞と悲哀を物語る重要な史跡となっている。一階はカフェとして使用され、日系人たちの歴史を記す写真や新聞記事、日本人町の地図などが飾られている。ホテルの現オーナーがカフェ、地下倉庫、銭湯、そして客室を案内してくれた。

カフェの床の一部はおおよそ50センチメートル四方に切り取られ、ガラス張りになっている。のぞいてみると、家財道具が秩序なく散乱した状態で置かれているのが見える。1942年の2月、大統領令が発令され、西海岸地域に住む日系人が、強制立ち退きを命じられた際、彼らが持参することができた荷物は、生活必需品など手に持てるだけの分量に限られていた。またその準備期間は約1週間であったため、彼らは、家財道具その他を、安く売ったり、知人に預けたり、それ以外は、ただ放置してこなければならなかった。地下の家財道具は、所有者が戦後取り

に來られず、そのままになっているのだ。当時の混乱のさまが、床のガラスの向こうに映し出されていた。

加えて、地下の銭湯「橋立湯」の光景は忘れられない。1910年代に開業し、1963年に廃業したという。鉄格子の柵にかかった鍵を開けて、私たちは地下の階段を下りていった。私たちは地下の階段を下りていった。湿った空気と少しかび臭い独特の匂いがした。男湯側の扉を開けると脱衣所があり、そのすぐ向かいに、花柄のタイル張りになっている流し場とコンクリートの浴槽があった。横幅が2メートル弱、縦が1.5メートルほどであったろうか。私は思わず、「あー」という声を発した。黄色みがかったほの暗い電灯の明かりの下に、立ち上がる湯気ややわらかなお湯が残したと思われるシミが、浴槽や壁、天井に模様のように残っているのが見えた。ちゃぽんという水の滴の音が聞こえ、茶色に日焼けした体を湯舟に沈める日本人労働者たちの姿がありありと目に浮かんだ。そして湯船で語らう彼らの声が聞こえてきたのだ。翁がこの銭湯に入ったかどうかはわからない。しかし、彼と同時期に生きていた日系人たちが、この銭湯を利用していたことは確かだ。故郷を懐かしみながら、またある者は日本に残してきた家族を思い浮かべながら、束の間の至福の時を過ごしていただろう。白人主流社会で受ける差別に憤り傷ついた、その痛みを癒していたかもしれない。

パナマホテルを実際に訪れたことは、これまで私が研究書や資料の上で理解しようと努めてきたものを、一瞬のう

ちに現実のものとして、肌感覚で教えてくれた。「百聞は一見にしかず」とも言えるが、より正確に表現するならば、これまでの「百聞」が「一見」によって、より鮮やかに立体的に蘇ったと言えるのかもしれない。



銭湯の写真

プロフィール

水野 真理子（みずの まりこ）

- 1975年 立山町生まれ。
- 1994年 富山県立富山高専卒業。
- 1998年 新潟大学卒業。
- 2003年 富山大学大学院人文科学研究科修士課程修了。富山大学非常勤講師。
- 2007年 第22回 翁久允賞受賞。
- 2010年 京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程修了。博士（人間・環境学）。
- 2014年 富山大学大学院医学薬学研究部医療基礎（英語）准教授。
- 2018年 富山大学教養教育院 准教授 現在に至る。
- 2022年 第39回「とやま賞」受賞。

第41回

「とやま賞」贈呈式

令和6年5月21日(火)

贈呈式・受賞記念講演

「とやま賞」とは…
富山県の置県百年を記念し、富山県の将来を担う有為な人材の育成に資する目的をもって昭和59年に創設されました。
受賞対象者は、富山県出身者または県内在住者で、学術研究、科学技術、文化・芸術及びスポーツの分野において顕著な業績をあげ、かつ将来の活躍が期待される個人または団体です。



石塚選考委員長による選考経過報告



新田知事より賞状・目録贈呈



第41回「とやま賞」贈呈式は、去る5月21日に、パレブラン高志会館にて執り行われました。
贈呈式では、新田富山県知事から受賞者5名に賞状及び奨励金目録が手渡されました。また、各受賞者からは受賞の喜びやこれまでの経緯についてプレゼンテーションしていただきました。



受賞記念講演

今回の受賞者

イオンポンプの異常に着眼した難治性疾患治療法の開発基盤の構築



藤井 拓人 氏

富山大学 学術研究部薬学・和漢系 講師
学術研究部門 医薬生命科学分野(分子生理学)

この度は栄誉あるとやま賞を賜り、誠に有難うございます。大変光栄に思うとともに、身の引き締まる思いでございます。私は大阪府の熊取町で生まれ育ち、富山医科大学(現・富山大学)薬学部への入学を機に富山へ参りました。富山に住んで早24年が経ち、気づけば大阪に住んでいた期間よりも長くなりました。私は大学3年次に、薬物生理学研究室へ配属され、本賞の推薦者でもある酒井秀紀教授(富山大学副学長、第18回とやま賞受賞者)のご指導の下、イオン輸送体の研究を開始いたしました。イオン(電解質)はイオン輸送体によって細胞内外に輸送されます。この細胞膜を介したイオン輸送は、記憶や心臓の拍動、消化など生物が生きる上で必要な様々な生命現象に関与しております。私はイオン輸送体の中でも、「イオンポンプ」に着目しています。イオンポンプは、細胞の内と外のイオン濃度を一定に維持し続ける役割を果たしており、いわば生命維持の根源を担うタンパク質です。私は、イオン

ポンプの異常とがんやパーキンソン病など難治性疾患との関連に着目した研究を行っています。

受賞につながった主な成果は、がん細胞に異常に存在するナトリウムポンプを発見し、がんが転移する新しい仕組みを明らかにしたこと、また神経細胞に存在するPARK9と呼ばれるタンパク質が、プロトンポンプとして働いており、その機能異常が遺伝性パーキンソン病の発症に関わることを突き止めたことです。特にPARK9に関する成果は、全国ニュースや様々な新聞に取り上げられ、非常に大きな反響を得ました。全国各地の患者様からも応援のお電話やお手紙をいただき、新しい治療薬開発の重要性和責務を改めて自覚致しました。現在、まだ機能が解明されていないイオンポンプの研究にも従事しており、自閉症、統合失調症、肺高血圧症などの難治性（希少）疾患に関わることを示唆する興味深い知見を得ております。今後の研究成果が、難治性疾患を克服するための新たな方策の創出につながるよう、より一層研究に精進する所存です。

最後になりましたが、私の研究を最初からご指導いただきました酒井先生、ならびに共同研究者の先生方や学生の皆様に深く御礼申し上げます。今後この受賞を励みに、研究をさらに発展させ、社会そして医療に貢献できるよう努めてまいります。また、一期一会のデータに真摯に向き合い、心ときめかせ、一歩ずつ真実に近づいていくことがサイエンスの醍醐味だと思っております。学生にサイエンスの面白さや奥深さを伝えることで、次世代の薬学研究者を育成し、人づくりに力を注いでまいりたいと思います。

塾に向き合い、心ときめかせ、一歩ずつ真実に近づいていくことがサイエンスの醍醐味だと思っております。学生にサイエンスの面白さや奥深さを伝えることで、次世代の薬学研究者を育成し、人づくりに力を注いでまいりたいと思います。



牧野 祐紀 氏

癌抑制遺伝子p53の活性化による慢性肝疾患の病態進展メカニズムの解明

この度は大変栄誉あるとやま賞を頂き、関係者の方々に心より御礼申し上げます。私は高校卒業まで富山で暮らした後、大阪大学医学部医学科に進学し、卒後は消化器内科を専門にしました。消化器内科では胃、腸、肝臓、胆嚢、膵臓など多くの臓器を対象とし、多岐にわたる疾患を診療します。自分の力で患者を治すことができた際には大きな喜びを感じられる一方、進行癌など救うことのできない症例も多く経験し、やがて医師としての無力感と医学の限界を感じるようになりました。そのため次第に研究に興味をもつようになり、医師6年目から大阪大学に戻り基礎研究を始めました。

大阪大学では主に慢性肝疾患に関する研究を行いました。慢性肝疾患は肝炎ウ

学術研究部門 医薬・生命科学分野(消化器内科)

テキサス大学 MDアンダーソンがんセンター 博士研究員

イルスや脂肪肝、アルコールなどにより引き起こされ、慢性肝炎から肝硬変を経て最終的に肝臓癌が発生する重篤な疾患ですが、有効な治療法が乏しいのが現状です。今回の受賞の対象となった研究は、慢性肝疾患患者において、がん抑制遺伝子p53が過剰に働くことで肝臓の炎症を引き起こし、発癌が促進されることを示したものです。p53は最も代表的ながん抑制遺伝子であり、慢性肝疾患患者の肝臓ではその働きが活性化していることが知られていましたが、その意義は不明でした。この研究により、p53の活性化が逆に発癌を引き起こすことが明らかとなり、慢性肝疾患患者においてp53が新たな治療標的となり得ることが分かりました。今後はこの知見をもとに新規治療の開発を目指します。

大阪大学での研究の後、現在は米国テキサス大学MDアンダーソンがんセンターに籍を移し、膵臓癌の研究を行っています。膵臓癌は非常に予後の悪い癌であるとともに増加傾向にあり、本邦におけるがん年間死亡者数として近年肝臓癌を抜き第4位になりました。この度の受賞を励みとして、今後肝臓癌・膵臓癌をはじめとした消化器癌の克服に向けてさらに努力していく所存です。最後に今回の受賞対象となった研究につき多大な御指導を頂いた大阪大学大学院医学系研究科消化器内科学の竹原徹郎教授はじめ諸先生方に深く御礼申し上げます。

大阪大学では主に慢性肝疾患に関する研究を行いました。慢性肝疾患は肝炎ウ



岡田 智 氏

生体分子機構解明に資するMRIプローブの開発

この度は、栄誉ある第41回とやま賞を賜り、大変光栄に存じます。富山県ひとづくり財団ならびに関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。

私は、とやま賞が創設された昭和59年に富山市に生まれ、新庄小学校、新庄中学校、富山中部高校を卒業しました。大阪大学に進学し、富山中部高校の先輩で平成14年度とやま賞受賞者でもある菊地和也先生のご指導の下、学位を取得しました。その後、米国MITで6年間のポスドク、産業技術総合研究所の研究員を経て、現職に着任しました。

画像診断法であるMRIは、被ばくなく生体深部を観察できる、優れたイメージング技術です。私は、診断薬であるMRI造影剤を化学的に改良し、狙った生体分子だけを検出できる造影剤を開発しています。この造影剤を体内に投与することで、生体深部で起こる化学反応や分子動態を、MRIで観察できるようにします。これまでに、ドーパミンやカルシウムなどの神経活動に関わる物質の観察

に成功しており、これらの脳内分布をMRIで明らかにすることで、脳機能や脳疾患の解明につなげたいと考えております。

私の研究のルーツは、タガメをはじめとする水生昆虫探しに明け暮れた子供時代に遡るような気がしています。両親には、県内各地の山・川・池に連れて行ってもらいました。今は虫捕り網が造影剤に代わっただけで、興味のある対象を捉えて観察するスタイルは変わっておりません。この原稿を執筆している今、タガメとゲンゴロウが富山で絶滅種に指定されたという、ショッキングなニュースを耳にしました。富山でタガメを見つけたことは、もう叶わないのかもしれませんが、造影剤で大きな新発見ができるよう、より一層、研究に邁進する所存です。

最後になりますが、これまでご指導いただいた共同研究者の皆様、いつも支えてくれる家族と友人に、深く感謝申し上げます。



佐藤 聡美 氏

学術研究部門 人文社会分野(臨床心理学)

聖路加国際大学公衆衛生大学院 准教授

小児がんにおける認知機能フォローアップ体制の整備

第41回とやま賞に選出してくださった

富山県ひとつくり財団、選考委員、並びに富山県民の皆様にご礼申し上げます。私の研究は、小児がんの子どもたちの認知機能(考える力)を測定し、もし病气や治療の影響により低下するようなことがあれば、エビデンスに基づいて病院から学校に教育支援を依頼できるよう体制を整備することです。

私がどうしてこのような研究をするに至ったのか。正直、自分でも小児がんの研究をするとは思っていませんでした。私は高岡高校を卒業してから、米国のBellevue Community Collegeに入学し、お茶の水女子大学の大学院に進学しました。しかし、研究テーマが見つけれず、茫漠とした不安に飲み込まれていく日々でした。そのようなときに、指導教員から小児がん病棟の臨床心理士の募集の知らせが届き、私はすぐに申し込みました。一番大変な仕事について、20代の時間を思い切り費やしてみたいと思ったからです。

案の定、入院病棟の仕事のやりがいがありました。ところが3年過ぎると、退院した子どもたちが学校でうまくいかないうことを耳にします。当時は、誰もが命が助かっただけでも十分、と考えていました。しかし私は、何か原因があるのではないかと思い、研究を開始しました。驚くことに、欧米の研究論文では、晩期合併症による認知機能障害がすでに指摘されていました。日本でも同様に検証し

なければと思いました。最終的には、子どもたちが学校に戻って適応しやすくなる医教連携のシステムを構築しないといけないと考えています。

振り返って思うのは、進路は自分のために選択すればよいと思います。そこで一生懸命に取り組むと、誰かのためになつていくのだと思います。

学術研究部門 人文社会分野(歴史学・日本史)

富山大学 学術研究部人文科学系 講師



長村 祥知 氏

承久の乱を中心とする日本中世の政治史および歴史叙述の研究

伝統ある「とやま賞」を拝受できて、まことに光栄です。関係の皆様にご礼申し上げます。

私は京都府南部で生まれ育ちました。日本の歴史や古典文学が大好きで、将来の就職に多少の不安を抱えつつも、同志社大学文学部に入学して日本史を専攻しました。

大学卒業後は、京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程、同博士後期課程に進学し、元木泰雄先生に師事しました。元木先生は2024年4月9日に逝去されて、今なお悲しみに暮れております。

専門職への就職はやはり大変でしたが、博士号を授与された後、京都府京都文化

博物館の学芸員に採用されました。主たる仕事は、お寺が所蔵する古文書の調査や展覧会の企画・運営などの社会教育でした。

その頃から富山との御縁があり、富山県公式ウェブサイトで公開されている『義仲・巴』出典付年表』を監修させて頂きました。折々に富山の美しさと美味しさ、優しさを感じました。

幸いにも2021年から富山大学に勤務して、人文学部の日本史と全学の博物館学芸員課程の授業を担当しています。

大学の卒業研究では、承久の乱(1221年)の直後に成立した歴史叙述『六代勝事記』に取り組みました。その後も、朝廷・皇族・貴族と幕府・武士の関わりや彼等を描く歴史叙述に注目して、承久の乱や木曾義仲(生1154年(没1184年))の研究を続けています。この時代を扱った2022年NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」では時代考証を担当しました。

ともすれば人文系の学問は、(実学に対する)虚学だとも言われます。しかし高校生時代の私のように、歴史や文学が好きな人は世の中にたくさんいますし、それらがなくなってしまうたら生きる希望を失う人も多いと思います。

今後も、文化が人の心が必要であることを広く伝えていきたいと思っています。それが、これまで私を教え導いて下さった多くの方への恩返しになれば幸いです。

夢の卵 育成事業

この事業は、ノーベル物理学賞を受賞された故 小柴昌俊さんの「子どもたちには『夢の卵』を持ち続けてほしい」とのメッセージにちなんで企画しました。子どもたちに「いくつもの『夢の卵』をもってもらふこと」、「『夢の卵』を温めてもらうこと」、そして「『夢の卵』を孵すこと」を支援し、自分の将来を考えてもらうきっかけづくりをねらいとして、平成16（2004）年度から実施しており、今年で20回目となりました。

4月中旬から5月にかけて、県内の小学校5、6年生と中学校1、2年生を対象に、「将来の夢（＝夢の卵）」を書いた作文を募集し、その中から選んだ4名の児童生徒が、各分野の専門家に短期入門をしました。また、より多くの子どもたちの夢を応援するため、それ以外の秀でた作品を佳作として表彰しています。

小学生の部（応募数449作品）

人の役に立てるロボット プログラマーになりたい

原田 遥香 さん（南砺市立城端小学校5年）

ロボットによる治療やケアの有用性に気付き、そのようなロボットを製作できるプログラマーになりたいと富山県立大学の智能ロボット工学科に入門。これからの社会におけるロボットの役割や基礎となるプログラミングについて学び、実際にロボットを製作しました。

体験記 より

とても貴重な体験でした。今回の短期入門で、「英語」と「数学」の力をつけることと、「C言語」の勉強の必要性を強く感じました。そして、『人の役に立つロボットプログラマー』になるために、今から色々な学習に取り組んでいかなくてはならないと思いました。



プログラミングについての講義



スマホでコントロールできるロボットの製作



病院薬剤師の役割・業務についての説明



模擬調剤体験

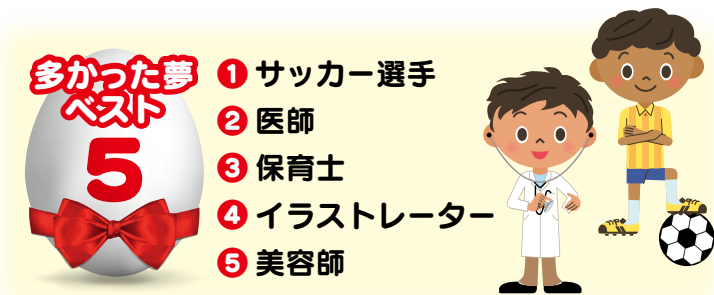
患者さんに安心や生きる希望を 届けられる病院薬剤師になりたい

嶋原 颯真 さん（高岡市立高岡西部小学校6年）

過去に家族が病院薬剤師に支えられた経験から、自分も病院薬剤師になって患者に生きる希望を与えられるようになりたいと厚生連高岡病院に入門。病院薬剤師の役割・業務について学び、模擬調剤を体験したり、実際の患者指導を見学したりしました。

体験記 より

病院薬剤師になりたいという夢は持っていましたが、今回の経験を通して大きなやりがいを感じ、今まで以上に夢が確かなものとなりました。将来は富山県で働いて、少しでも薬剤師不足を解消できるように、これから努力していきたいです。



＜令和6年度の入賞者数＞

小学生の部 優秀賞（短期入門）2名 佳作 15名
中学生の部 優秀賞（短期入門）2名 佳作 14名



令和6年度 夢の卵表彰式

中学生の部（応募数557作品）

世界中の困っている人を助けられる 国際機関職員になりたい

清原 歌帆 さん（小矢部市石動中学校1年）

様々な報道から世界には多くの紛争と難民が存在することを知り、その人たちを支えるためには自分は何ができるかを考え、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）駐日事務所、国連UNHCR協会に入門。世界情勢の中での難民を取り巻く最前線について知り、今後自分に何ができるか、何をすべきかを考える機会となりました。

体験記より

入門を通して、難民支援の業務内容やそれに携わる職員の方々の思いを知ることができ、将来の方向性を考える上でとても参考になりました。これからも難民の人々に関する勉強をし続けるとともに、支援の理解と参加を呼びかけることについても実践していきたいと思います。



UNHCRの職員の方との対談



キャリア大学での意見交換



宇宙飛行士訓練についての講義



JAXA調布航空宇宙センターの見学

日本の宇宙産業を輝かせる 開拓者になりたい

山本 悠仁 さん（富山大学教育学部附属中学校1年）

宇宙開発に強い興味と憧れがあり、日本の宇宙産業をリードする開拓者になりたいと、有人宇宙システム株式会社（JAMSS）に入門。現在の宇宙開発・研究の現状や宇宙飛行士の訓練内容、国際宇宙ステーションの運用について学びました。入門とは別にJAXA調布航空宇宙センターを見学させていただきました。

体験記より

日本の宇宙産業の先端で活躍されている方々にお会いし、その熱意や現場のリアルを直接感じることで、ホームページで得る情報とは比較にならないほどの大きな刺激を受けました。今現在の日本が誇る技術やその課題について深く知ることができ、心ゆさぶられる思いで胸がいっぱいになりました。

きらめき未来塾

子どもたちの発想力や創造力・ユーモアのセンスなど多様な可能性を引き出すため、各分野で活躍されている方を講師にお招きし、夏休み期間中に3つの道場を開催しました。

右脳活用道場

直感的なイメージ、柔軟な発想力、創造力を形にする表現力を育てる

講師：森 みちこ さん（漫画家）

オリジナルの漫画づくりを通して、自分のアイディアや考えを絵と言葉で表現する手法を学びました。

みんなに読んでもらう作品として仕上げることを体験することで、自分のイメージや思いを伝える絵や言葉の展開・表現の難しさ、1つの作品が出来たときの達成感を味わいました。

※みんなが描いた漫画は1つの作品集にまとめてプレゼントしました。

- 第1回【8/2】オリジナルマンガのネームをつくろう
- 第2回【8/9】原稿の下描きとペン入れをしよう
- 第3回【8/16】スクリーントーンを使ってみよう



完成した作品集



漫画の描き方指導



原稿の制作

お笑い道場

ことばあそびを通して、ユーモアのセンスやウイットに富んだ表現力を育てる



指導風景



お笑い大会 大喜利の様子



お笑い大会 集合写真

講師：牧内 直哉 さん

（フリーアナウンサー、社会人落語家 安野家 仁楽斎）

ことばあそびをテーマに短めの笑い話「こばなし」、「なぞかけ」、五七五の「折句」などに取り組み、発想力や表現力を磨きました。お笑い大会では、ホールに集まった家族の皆さんを前にこばなしやなぞかけなどを披露することができました。

- 第1回【8/1】自由に自己紹介してみよう
- 第2回【8/8】「こばなし」「なぞかけ」をやってみよう
- 第3回【8/16】ユーモアを交えて表現してみよう
- 第4回【8/25】お笑い大会（発表会）



思考道場

ゲーム感覚で数学的な考え方を磨き、柔らかな思考力・発想力を養う

特別講師：秋山 仁先生（東京理科大学栄誉教授）

講師：小澤先生、小里先生、中田先生、杉本先生、養藤先生
（県内小学校教員5名）

2年ぶりに数学者秋山仁先生の特別授業が高志会館カルチャーホールで行われました。小学5、6年生42名、保護者等約100名で楽しく算数・数学の世界を味わいました。第2、3回は県内5名の先生方が講師となり、いろいろな算数の課題に挑戦しながら、考えることを楽しみました。

- 第1回【7/30】「特別授業 -算数と仲良しになろう-」
- 第2回【8/7】「すごろくドボン」「数理ゲーム必勝法」「一刀切り」
- 第3回【8/19】「なかまあつめ」「タングラム」



特別授業



一刀切り

子どもたちの生きる力を育む起業家教育推進事業

子どもたちが変化の時代を「生き抜く力」（失敗を恐れず、目標をもって進む力・諦めない力・やりきる力等）を育成するとともに、子どもたちの将来のキャリアの選択肢を増やし、学ぶ意欲を高めるため、起業家教育ワークショップ「みらいの起業家マインド育成塾」を開催しました。

起業家教育とは…「起業家精神」（チャレンジ精神、創造性、探究心など）や、「起業家資質・能力」（情報収集・分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション能力など）を有する人材を育成する教育

みらいの起業家マインド育成塾

（公社）日本青年会議所北陸信越地区富山ブロック協議会と共同で主催し、小学6年生、中学1、2年生を対象に8月7日（水）に農協会館で開催しました。

第1部 経済のしくみを知ろう

カードゲームを使って、助け合いながらより良い暮らしを作り上げていく経済活動を疑似体験しました。

グループの仲間と協力しながら、「資源」「技術」「生産物」のカードを組み合わせ、経済をまわすことの基礎・基本を学びました。



グループの仲間とカードゲームに取り組む



適性検査



加藤さん(愛・地球博の未来の車「i-unit」開発チーフエンジニア)の講話

第2部 自分の長所を見つけよう

適性検査を実施し、まだ気付いていない自分の長所や可能性を見つけます。検査で気付くことができた自分の長所に驚く姿が見られました。

また、特別講師の加藤喜昭さんに新しい時代を切り拓くアイデアを形にする過程をお話いただきました。

第3部 みらいをつくるヒントをつかもう

公益社団法人日本青年会議所北陸信越地区富山ブロック協議会（JCI）メンバーから、グループ毎に経営者としての体験談をお話いただきました。

その後、活動のまとめとして「自分自身の将来」をテーマにグループセッションを行いました。



JCIメンバーの体験談



グループセッション

ひとりづくり財団からのお知らせ



富山県教育記念館では大会議室1室（収容人数60名程度）、会議室3室（収容人数各20名程度）の計4室を貸出しています。会議や講演会、試験会場等にご利用いただけます。

ご利用のお問合せ・お申し込みは

当館1階受付 TEL：076-433-2770 まで
※受付時間 祝日を除く8時30分から17時まで
ご利用料金、空き状況などは、下記から確認できます。
<https://www.t-hito.or.jp/reserve/>



こんな事業もしています

「高校生とことん科学セミナー」開催事業

県内の高校生に科学への関心をさらに深め、将来の進路や人生を考えてもらうことを目的に、各分野で活躍中の研究者を講師に招き、例年3月頃に「講義」や「実習」を行っています。

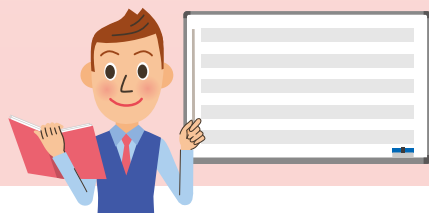
テーマ 「富山の地震と活断層をさぐる
～地形・地質を読み解いてみよう～」

講師 安江 健一 氏
富山大学 学術研究部 都市デザイン学系 准教授



高等教育振興事業

県内の高等教育機関（大学・短大等）が実施する教育研究活動及び地域連携活動等に対する支援（助成金の交付）を通じて、本県の学術、文化及び産業の発展を図りました。



- 第1号 学会等の開催に対する助成事業
- 第2号 公開講座、シンポジウム等の開催に対する助成事業
- 第3号 研究助成事業
- 第4号 大学連携支援事業
- 第5号 私立大学振興事業

令和6年度賛助会員の紹介

（令和6(2024)年12月31日現在）

ご支援いただき、ありがとうございます。

（企業・団体）20企業・団体

（敬称略、五十音順）

- | | | |
|----------------|----------------------|---------------------|
| ● 朝日建設株式会社 | ● トナミ運輸株式会社 | ● 株式会社北陸銀行 |
| ● 株式会社インテック | ● 富山エフエム放送株式会社 | ● 北陸コカ・コーラボトリング株式会社 |
| ● 大高建設株式会社 | ● 富山経済同友会 | ● 北陸電気工事株式会社 |
| ● 紙ぶらす株式会社 | ● 富山信用金庫 | ● 北陸電力株式会社 |
| ● 佐藤工業株式会社北陸支店 | ● 株式会社富山第一銀行 | ● 株式会社MGG |
| ● ダイチ株式会社 | ● 日本海ガス絆ホールディングス株式会社 | ● YKK株式会社黒部事業所 |
| ● 武内プレス工業株式会社 | ● 阪神化成工業株式会社 | |

（個人）21名

富山県ひとづくり財団では、賛助会員として、富山県の未来を拓く創造性豊かな子どもの育成にご協力いただける企業、団体、個人の方を随時募集しております。詳しくは、富山県ひとづくり財団までお尋ねください。

特典 機関紙の定期配布（年1回）、イベント等の開催案内、各種報告書等の配布

年会費 法人会員 年一口 30,000円
個人会員 年一口 3,000円



令和7(2025)年度 富山県ひとづくり財団 事業予定

1 人づくりに関する調査研究及び普及活動

① とやまファン倶楽部事業

富山県をこよなく愛し、全国から富山県を応援する方々のヒューマンネットワークづくりを推進します。

② 退職教員等活用推進事業

退職教員や民間企業の人材を登録し、学校現場へ紹介することにより、学校における人材確保と優れた指導実践の継承を図ります。



2 元気で創造性豊かな子どもの育成事業

① 「夢の卵」育成事業

② 「きらめき未来塾」事業

思考道場（算数）、お笑い道場、右脳活用道場（漫画）

③ 「ロボットづくり教室」開催等事業

子どもたちにもものづくりのおもしろさや楽しさを味わってもらうため、「アイデアロボット展」の開催期間中に「ロボットづくり教室」を開催します。

④ 「高校生とことん科学セミナー」開催事業

科学に興味のある高校1、2年生を対象に、最先端の科学に触れ、科学者等とひざを交えて語り合う交流の場を持ち、将来の自分の進路について考えてもらいます。

⑤ 子どもたちの生きる力を育む起業家教育推進事業

小学6年生および中学1、2年生を対象に起業家教育ワークショップ「みらいの起業家マインド育成塾」を開催し、県内における子どもの起業家教育の普及を図ります。

3 元気な地域づくり事業

「学ぼう！ふるさと未来」支援事業

ふるさとに学び、ふるさととともに生きる地域活動を実践している小学校を支援します。

4 優れた人材育成支援事業

「とやま賞」贈呈事業

5 教育の歴史文化に関する文献の収集・保管・展示

① 企画展、恒例展の開催

富山県教育記念館1階展示スケジュール

【企画展】4/17(金)～6/30(月) 郷土の先賢展「仕事をおこす！」 ～富山から社会を拓いた起業家たち～			
【恒例展】7/4(金)～8/19(火)	第18回	富山県版造形教育作品展・秀作回顧展	
7/9(水)～9/30(火)	第23回	さんすうワールド展	
8/28(木)～9/30(火)	第22回	子どもの目、自然不思議発見写真展	
10/5(日)～10/11(土)	第39回	富山県教職員厚生会退職厚生部富山支部会員作品展	
10/17(金)～11/9(日)	第16回	児童・生徒によるものづくり展	
11/15(土)～11/30(日)	第56回	富山県造形教育作品展	
12/6(土)～1/11(日)	第21回	アイデアロボット展	
1/16(金)～2/8(日)	第36回	富山県中学校美術展	



② 常設展（2階、3階展示室）

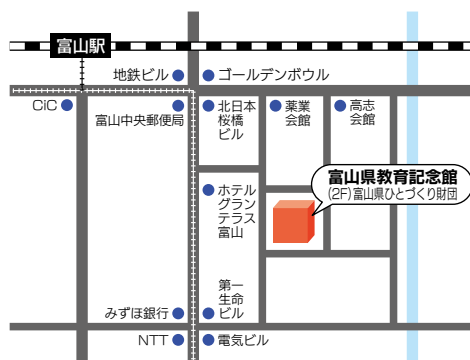
「富山県教育のあゆみ」、「県内すべての学校情報」や「郷土の優れた先人160名」を御覧いただけます。

6 高等教育振興事業

県内の高等教育機関が実施する教育研究活動及び地域連携活動等に対して支援します。

7 教育記念館管理運営事業

学校教育関係団体が集う富山県教育記念館の管理運営を行います。



公益財団法人 富山県ひとづくり財団

〒930-0018 富山市千歳町1-5-1 富山県教育記念館2階
TEL (076) 444-2000 FAX (076) 444-2001

Mail toyama@t-hito.or.jp

HP <https://www.t-hito.or.jp/zaidan/>

X https://twitter.com/t_hitozukuri



HP



X

令和7(2025)年3月発行